

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372400495		
法人名	医療法人宏友会		
事業所名	ふれあいハウス(ふれあいハウスⅡ)		
所在地	愛知県半田市南大矢知町2-42-5		
自己評価作成日	令和5年1月20日	評価結果市町村受理日	令和5年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2372400495-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2372400495-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	令和5年2月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

令和4年に新築移転し、ホームの理念である「穏やかな」を基本に利用者様の想いに寄り添い、笑顔あふれるアットホームな施設です。経験豊富なスタッフも多く在籍しており、ご家族様の希望があれば人生の最後の時までをしっかりとお世話させていただきます。また、系列法人内のクリニックとの連携もとれており、健康管理やリハビリもしっかりと行えています。今はコロナで外出や地域の方との交流ができませんが、日々の生活の中で季節を感じられるお食事やおやつを提供、また季節の行事などを行い、施設の中にいながらも外の空気を感じられる施設づくりを目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」  
 ②軽減要件確認票  
 ③目標達成計画

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	フロアの目につくところに掲示しており、常に意識できるようにしている。入職時のオリエンテーションや会議の際、折に触れ理念の目指すことの意味を伝えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議が開催できるときには民生委員の方に参加していただいている。コロナ禍のため、地域の方との交流は現時点では難しい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ以前はボランティアの方に来ていただき認知症の方との交流することで理解を深めるきっかけづくりや支援の方法など示していたが、現在はコロナのためできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議が行われた際に出た意見はスタッフ間で共有し日々のサービスに活かせるように取り組んでいる。会議ができない時には面会の際に日々の様子を伝え、意見を伺うなどしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	半田市主催の会議があるときには参加し、情報の共有を図っているが、コロナ禍で会議自体少ないためうまくできていない。それ以外では運営推進会議に参加していただき運営内容や行事の報告をし意見をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月開催されるハウス会議にて身体拘束に関する話をしている。現在ホーム内ではそのようなケアはしていない。離接の可能性がある方に関しても施錠等での対応はせず、見守りにて対応できている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内に虐待防止委員会があり、定期的に勉強会をし会議に時にはそのような事が無いか確認している。また研修に参加しその内容を共有できるようにしている。職員がお互いに言葉使いなどを注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修に参加するなどし必要な内容については情報を共有している。ただし、現在その制度を利用している方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ゆっくりとわかりやすい説明をおこない、不安に寄り添い疑問を解決できるように努めている。わからない事があればいつでも聞いていただけるように声掛けをおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時やお電話にてこまめに状況をお伝えし、ご意見や要望をお聞きし出来る限り反映させている。また、なんでも言い合える関係づくりを心がけ運営の参考にしてている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な会議や毎日の申し送りなどで意見を出し合い問題解決に取り組んでいる。年に2回以上個人面談の場を設けるようにし、意見や提案がしやすい環境づくりを心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回個人面談を必ずおこなっている。法人で共通した実行計画書を記入してもらい個人目標を設定し振り返り評価をしている。定期的に行う面談以外にも必要であれば随時面談をおこない職員の悩みを聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修をたくさん受けてもらえるように機会をつくり、勤務で参加できない職員のためにもその内容の理解を共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人内外で交流する機会をもち、職員が順次参加できるように取り組んでいる。ただし現在はコロナ禍ということもあり、そのような機会にはあまり恵まれていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	情報を収集し不安や困っている事は何なのか、ニーズは何かをしっかりと受け止め、それを職員間で共有し対応することに努め、本人の心身の安定が得られるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	こまめに声掛けしよく話を聞き情報を得るようにしている。また、何に一番困っていて何を必要としているのかをその都度聞くようにし、その不安に寄り添い安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	話をよく聞きどのような支援が一番必要なのか相談し、よりよい必要なサービスが選択できるようにしている。利用者様の「言葉」を大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人が何を望んでいるのか、今何ができるのか、可能性はどうか職員間で情報を共有し、皆が同じように関わられるように努め過剰介護にならないようにしている、他人以上家族未満の関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や家族会、運営推進会議、電話連絡などで今の心身の状況をお伝えし、本人やご家族の思いを大切にしながら支援することで信頼される関係づくりができるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本来であれば、ご家族様やお友達が訪問しやすい環境を整えており、なじみの方との交流や、利用者様が暮らしていた生活圏へ出かけていたりしているが、現在はコロナのためできていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人一人の個性た特徴を踏まえ、楽しく過ごせるように席の配慮をしたり共通の趣味を通じ交流できるようにし、参加できない方に関しても職員が間に入り関わり合いが持てる環境づくりを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了時には何かあればいつでも相談に乗れることを説明し、必要時には電話や訪問などおこない相談に乗る体制を作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までどのように暮らし生きてきたのか日々の生活の中での利用者様の声に耳を傾け情報を集めるとともにご家族にも聞き取りながら本人の思いや考え方を把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族や、ご本人を取り巻く方たち(これまでの受けてきたサービス関係者など)から聞き取れるようつとめている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	きめ細かく些細なことも観察し情報を共有するように努めている。日々の生活の中で行われるレクリエーションなどの中から利用者様の持っている能力を見極めできることを見つけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的なミーティングやご家族への聞き取りにより今の状態に即した介護計画作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	情報を共有しながら問題意識を常に持ち日々の介護に実践している。そこで気づいた問題点を会議やカンファレンス等で話し合い介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族の希望やご本人の状況によりどういったサービスが一番適切なのかを意識して柔軟に考えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	半田市内の地域資源を把握するように研修に参加したり広報も確認しながら取り組んでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	母体が医療法人であるため、健康に関しての不安や受診にも柔軟に対応している。隔週の往診時には必要時や家族の希望があれば同席していただき、専門医やほかの医療機関に紹介もさせていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	非常勤の看護師とは常に情報を共有し、何かあればいつでも電話にて対応できるようにしている。また、必要に応じて法人内の訪問看護部門にも協力を仰ぎ連携をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは常に連携し、情報を得たり相談ができる体制づくりにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時にハウスでの看取りの体制や重症化したときはどこまでの支援ができるかを説明し、必要時には医師からの説明し理解していただいている。運営推進会議においても話題にし、考えていただく機会作りをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に研修や勉強会を開催し、どの職員もきちんと対応ができるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な訓練を実施し、半田市の避難訓練の情報も得るようにしている。また隣の施設であるグループホーム元気村と連携しての避難訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇研修や認知症の方への関わり方の研修参加も含め、常にさせていただくという謙虚な気持ちを持ち、人生の先輩である方たちにどうかかわればよいのか互いに注意しあいながら対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の関わりやきめ細かい観察から、ご本人の思いや何を望まれているのか把握するように努めている。利用者様から聞こえる「声」に対しては職員間で共有できるようにカルテに記入し連携を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかな日課は決まっているが、ご本人の意向をお聞きしながらその方のペースに合わせて柔軟に対応するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の希望や好みをお聞きしながら対応している。定期的な理美容も心掛け、ご希望があればなじみの美容室へ行かれることもある。基本であるが必ず整容に努めるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節に応じた食事や行事食を提案し、少しでもおいしく召し上がっていただけるように工夫している。準備や片づけに関してはできる部分でのお手伝いをお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	きめ細かく観察し、必要な栄養が取れているのか看護職や栄養士も含め支援している。水分量も記録しており、水分がうまく摂れない方に関しては、好みの飲み物を用意したり食事から水分が摂れるような工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	適切に口腔内の清潔が保てるよう、職員間で声を掛け合い、必要に応じて介助するなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者全員の排泄記録をとり、ひとりひとりの排泄のパターンや尿意便意を含め把握し、それぞれに合わせた排泄の支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の状況を把握し、腹圧のかけやすい姿勢や腹部マッサージ、看護師との連携で適切に排便できるようにしている。またおやつに果物やヨーグルトなどを提供するなどし便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	大筋の入浴日は決まっているが、ご本人の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	今まで使用していた使い慣れた寝具を持ってきていただきたり、好みの寝具を用意していただくなど快適な安眠が得られるような環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師や薬剤師と連携を取りながら、薬の用法や効果、副作用についての把握したうえで服薬が支援できるように努めている。また状態の変化に気づくことができるよう様子を観察し、場合によっては医療職に相談するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人を取り巻く方たちから情報を得たり日々のレクリエーション活動を通し、好みや得意なことを把握し、楽しみの中にも役割や生き甲斐が見つけれられるような支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	施設周辺の自然を感じながらのお散歩や、近くのコンビニなどへの買い物などその日の気分によって支援できるように努めている。また、美容院やお墓参りなどご本人の希望があればご家族様の協力のもと、安全に外出できるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出先では個々の状態に応じて支払いに関わっていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話をお持ちの方に関しては、自由に電話をされている。それ以外の方は希望があれば施設の電話を使用していただいている。手紙のやりとりもご自由にいただけるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	廊下や居間は十分な広さが確保されており、窓も大きく、不必要なものを置かないことでゆったりとした空間を保ち、快適で安全な場所になるよう心掛けている。また、季節に応じた雰囲気や空間づくりに努め、気候のいい日にはテラスで過ごすなど居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	席の配慮をすることはもちろん、ゆったりと過ごせるソファ席を用意し、自由に過ごしていただけるよう工夫し、ストレスのない時間が過ごせるように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族に協力していただきながら、使い慣れた家具や家族写真など、ご本人のそばに置いておくことで心の癒しや安心が得られるような部屋づくりを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全を第一に考えた快適な環境になるようにしている。過剰介護にならないように、「見てわかる」案内や、「見ればできる」表示を工夫するなど、一人でもできることを維持できる支援をさせていただいている。		